見慣れた日常風景こそが、何よりの復興への心の支え

津波で雄勝町の建物の屋上に打ち上げられたバスのことは、当 HP でも触れたことがある（HP「雑学 BN」のメル友・コメント等関係（Ⅵ）、2012.03.11.「まだまだ長い道のりだけに、一歩一歩、ゆっくりと…」：参照）。

このバスの所有会社のメル友に、「降ろしたバスと同じデザインのバスが動き出したとのニュース、見ましたよ。ご主人もようやく具体的に以前のバスと同じデザインのバスの運行で、復旧・復興の第一歩を実感されたようですね。」とメールしたところ、次のようにカラーリングしたバスの写真を添付して返信（抜粋）をいただいた。

【　そうなんです。ようやく、同じカラーが復活しました。
４月に新型車は来ていたのですが、震災で工場が混んでいてカラーリングが出来ず濃い青と薄い青のバスでした。
同じバスなのに、カラーラングされているバスが納車されると社員と一緒にお出迎え！
その夜は、そっとお祝い会をしました(*^_^*)

ようやくここまで来たな～と泣けてきました。ポロポロと涙がこぼれ、本当に泣き虫になってしまっています。
○○（バス製造会社）の担当の方は、「私まで、泣けてきます。納車のためにバスの後ろを一緒に走ってきましたが、本当にジ～ンと感じながら来ました。」
カラーリングが違うとこんなに感動が違うのか！！と思いました。

震災直後から、あのカラーリングの復活を夢みてきましたからね～＼(^o^)／
「夢や希望を持って、目標を設定しそれに向かって努力する事、そして、その過程を楽しむことが一番！」と想いました。
色々と山あり谷ありですが、ひとつ嬉しい事があると全てを覆い被せてしますね。　】

復旧・復興には物資等支援もさることながら、やはり震災前と同じような日常風景、等々が、少しでも戻りつつあることを実感することが、被災された方々の何よりの復旧・復興への支えになるようである。

翻って思うに、原発事故で故郷が居住制限区域や帰還困難区域に指定されて避難生活を強いられ、見慣れた故郷の日常風景の復旧を目に出来ない方々が、夢や希望を持つことがどんなに大変なことか…。

阿部幸泰　　（2012 年 7 月 2 日　記）